



差のない教育を世界中に

テーマ説明

- ・教育関係に興味があり、将来も教育に携わる仕事に就きたい。世界中の学生に質の高い教育を受けてもらいたい。
- ・SDGsにおける17の目標の：4「質の高い教育をみんなに」というのに関連付けて、日本や世界の教育状況や方針について知り、これからの教育がどうあるべきか考える。

私たちの考える質の高い教育とは

生徒への負担を最小限に、ストレスをかけない教育

※負担=勉強などが原因で私生活に影響がでること ※ストレス=重すぎる悩み、精神的苦痛

実施内容

世界幸福度ランキング第1位!!

世界学力テスト第1位×3!!

フィンランド



中国

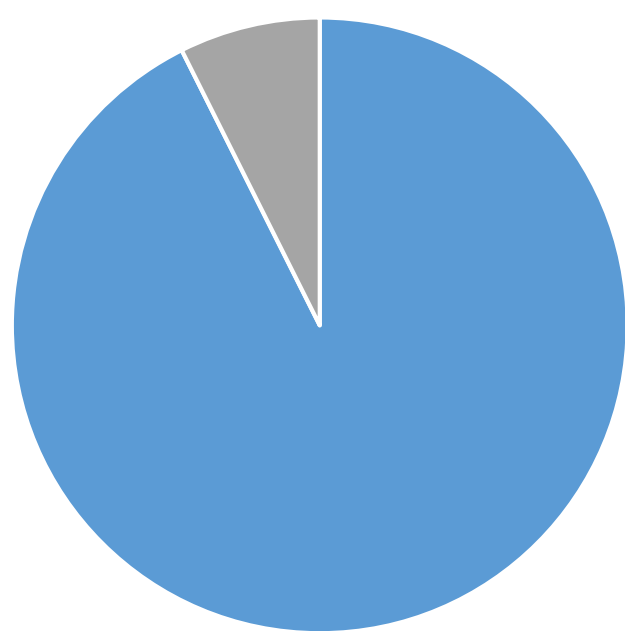


フィンランドの特徴	中国の特徴
・学費が無償	・受験戦争が激しい
・授業日数190日間	・小学校から大学の受験勉強
・夏休み2か月	・文化面・生活面<勉強・知力
・読書量世界1位	・予習復習+大量の模試テスト

アンケート結果

Q1 学校生活は充実していますか？

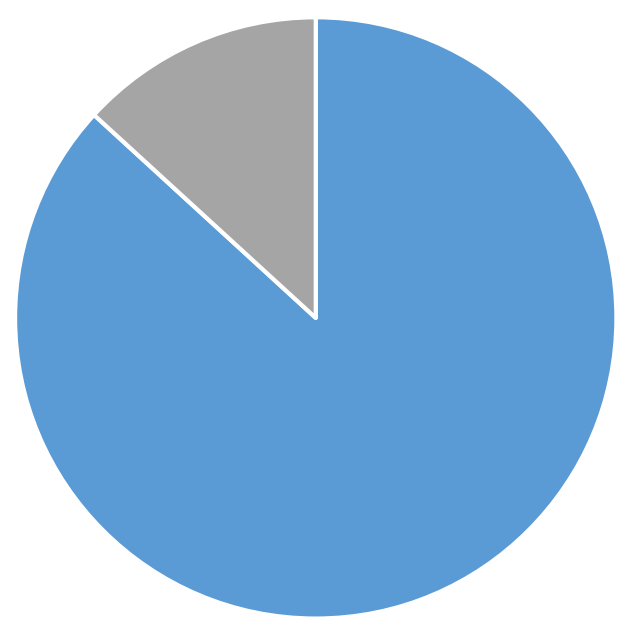
●はい
●いいえ



- ・勉強ばかりでつまらない
- ・テストが多い、忙しい、課題が多い
- ・寝る時間がない
- ・楽しくない

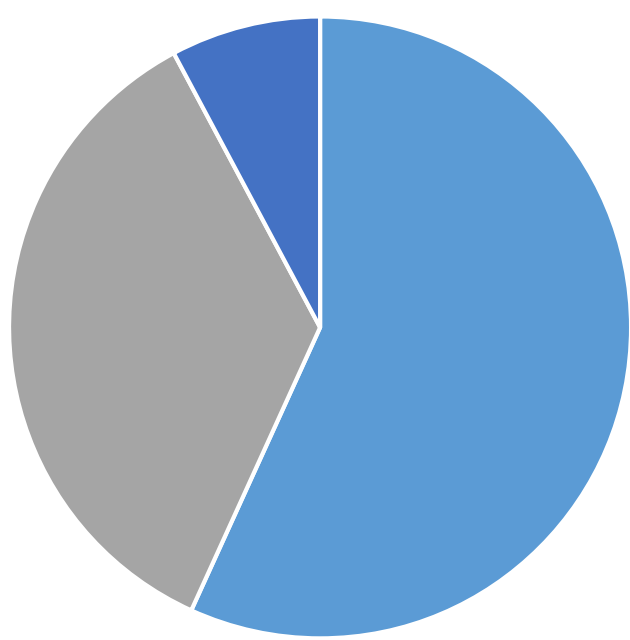
Q2 大学進学において学費は気になりますか？

●はい
●いいえ



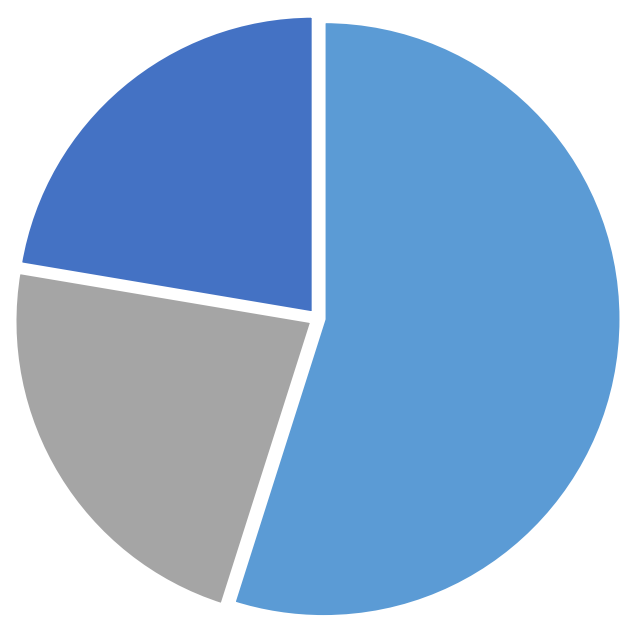
Q3 学力は読書量に比例していると思いますか？

●はい
●いいえ



Q4 分からない問題ができたときはどうしますか？

●やり方を調べる
●自分なりに答えを出す
●答えを写す



分かったこと、考えたこと

- ・日本 **フィンランド** **中国** 義務教育年数同じ

↓
問題なし

- ・**フィンランド**では子供が自由に楽しく勉強できるようにする方針
- ・**中国**は小さい頃から努力を積み重ねて、将来キャリア面で優位に立てるようにするという方針



→ 子供の立場では**フィンランド**
大人の立場では**中国**

- ・西高校生徒→課題,テスト,部活動で休む暇がなく、忙しい
部活動によって勉強が疎かになっていると思っている人が多い
- ・日本の子供は受動的である

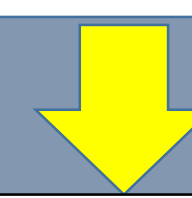


今後の課題

フィンランドや中国は部活動がなかったり、目指す先が異なっているため

日本ならではの教育方針を考えなくてはならない

- 部活動との両立：テスト前には勉強に集中できるように配慮する
極度なストレスを持たせないようにする
- 受動的：“**アクティブラーニング**”の活用
- 読書量の増量 **↗**=国語力UP&感受性豊かになり、自分の考えをまとめて発表できるようにする



今後の展望

「学校で学んだことが、子供たちの『生きる力』となって、明日に、そしてその先に繋がってほしい」〔文部省〕

+

社会に出ても、学校で学んだように、どんなことに対しても自分で考え、判断し行動できる人へと導く

文部科学省(2011)「『生涯学習施策に関する調査研究』読書環境・読書活動に関する諸外国の実態調査」
 <https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/chousa/1341189.htm> 2020年11月19日閲覧
 Education Career (2020)「海外の学校と日本の学校のちがいは？」
 <<https://education-career.jp/magazine/data-report/2020/world-edu/>>
 文部科学省ホームページ
 <<https://www.mext.go.jp/>>